

業務継続計画（BCP）について

一般質問



長田 謙一 議員
(21 政会)

問 加西市の業務継続計画（BCP）の現状について。

答 災害時において、地方自治体は災害応急対策活動や、復興・復旧の活動主体として重要な役割を担っており、地域住民生活に不可欠な通常業務を継続することが求められている。

業務継続計画（BCP）とは、行政職員も被災し、人物・情報等に制約がある状況を想定した業務計画である。具体的には、庁舎が破壊または倒壊し、多数の職員が被

災した状況で、いかに自治体業務を継続的に執行するかを定める計画である。

内閣府が示す業務継続計画（BCP）の指針では、①首長不在時の明確な代行順位及び職員の参集体制、②本庁舎が使用できなくなった場合の代替庁舎の特定、③電気・水道・食糧等の確保、④災害時もつながりやすい多様な通信手段の確保、⑤重要な行政のデータのバックアップ、⑥非常時優先業務の整理が中核6要素とされている。

加西市では、災害対策基本法に基づいて地域防災計画を策定しているが、これは、減災を防災の基本理念として、被災しても人命が失われることがないことを最優先に策定しているものである。前述の6要素のうち①④⑤は確立しているが、現在のところ業務継続計

画として個別に作成はしていない。

問 新聞アンケート調査における、「人手不足で着手できていない」との回答について。

答 そのような文言で文書回答をしたわけではないが、取材のやり取りの中で担当者が述べた言葉が、前述の表現で記事になったものと推測する。

「人手不足を理由に着手できない」とする記事が、職務への意欲も含めて悪影響を及ぼしていると認識しており、今後の取材等では誤解を招くことのない言葉で回答するよう留意したい。

■その他の質問項目

- ・ 産業・工業団地の整備について
- ・ 魅力ある観光まちづくりについて

「ミライナカ」と都市計画について

一般質問



深田 真史 議員
(加西の新しい未来を創る政策研究会)

問 市道鶉野飛行場線の工事について。

答 鶉野飛行場線は、平成27年度から31年度までの5カ年で県道玉野倉谷線から県道三木穴栗線を結ぶ路線を整備する予定です。延長にして2,450mあります。

今年度、鶉野飛行場滑走路跡の南端から市道中野家塚線までの用地買収と工事を考えています。また、中野家塚線から北側の県道三木穴栗線までの設計や現地調査・測量も予定しています。平成31年度の供用開始を目指しています。

問 市道豊倉日吉線の工事について。

答 豊倉日吉線は、鶉野飛行場線のちょうど北側にあり、三木穴栗線から市道繁昌玉野線までを結ぶ路線で、距離にして2キロあります。道路用地は圃場整備のときに確保できており、できるだけ早い段階で整備したいと考えます。

現在、認可申請中であり、来年度より国の社会資本整備交付金を活用し、鶉野飛行場線と並行し、事業実施したいと考えます。平成32年度の事業完了・供用開始を目標に進める予定です。

問 市道玉丘常吉線の道路修繕について。

答 路面の損傷は、できるだけ早く整備したいと思います。

問 加西インターからフラワーセンター前交差点にかけて

「土地活用促進地区」に指定されている。しかし、実際に規制緩和されているのは、JA本店南側の一部で限定的。その枠を広げ、活用が進めることができるか。

また、この地域から鶉野飛行場にかけて（三木穴栗線～市道中野家塚線）も促進地区に含めることは可能か。

答 促進地区は民間事業者による開発を誘導し、土地活用を行う地域です。豊倉町は店舗面積を1,500平米で規制緩和していますが、問い合わせが来ても、非常に大型の店舗などの内容でここに合わないものです。引き続き、民間事業者や不動産業者に周知していきたいと考えます。

また、促進地区を指定するにあたり、地元の要望があれば市の都市計画審議会で審議し、新たに地区指定することは可能です。